



ゆづりは

堺市立図書館だより

第7巻 第3号 (通巻25号)
 発行日 平成24年12月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

ボランティア はじめませんか？

社会に貢献したいという気持ちから、ボランティアをはじめの方が増えています。ボランティアをする中で、新たな人間関係が生まれ、行動範囲が広がります。

図書館や地域で、おはなしや絵本の読み聞かせをしたいと考える人はいらっしゃいませんか？図書館では子どもの読書活動の輪を広げるためボランティア養成講座を開催しています。

例えば、読み聞かせボランティア養成講座では、読み聞かせの方法や絵本の選び方を学んでいただき、最後は自分で選んだ絵本の読み聞かせをしていただきます。受講後、希望者にはボランティアグループの紹介をおこないます。

すでにボランティアの活動を続けている人には、ボランティアステップアップ講座がおすすめです。

本棚の整理や本の修理など図書館の活動をお手伝いして下さるサポーターも募集しています。堺図書館サポーター倶楽部として、各図書館で活躍いただいています。

開催日	開催場所	事業名	定員
ボランティア養成講座 (子どもと本をつなぐボランティアをしてみたい人)			
平成25年1月11・18日、2月1・8・13・15・22日	南図書館	おはなし・読み聞かせボランティア養成講座 10:00~12:00	15人
平成25年1月11・18日、2月1日(金)	東百舌鳥公民館	絵本読み聞かせボランティア養成講座 10:00~12:00	10人
平成25年1月25日、2月1日(金)	美原図書館	子どもたちと絵本をつなぐ人になる ~読み聞かせボランティア養成講座~ 10:30~12:00	10人
平成25年1月31日、2月7・21日(木)	北図書館	絵本よみきかせボランティア養成講座 10:00~11:30	10人
ボランティアステップアップ講座 (すでにボランティア活動を続けている人)			
平成25年1月13日(日)	東図書館	本は人生の羅針盤~10代の読書を考える 14:00~16:00	70人
平成25年1月25日(金)	中図書館	子どもたちに紙芝居のたのしさを(予定) 13:00~15:00	40人
図書館サポーター養成講座 (図書館のボランティアをしてみたい人)			
平成24年12月14日(金)	中図書館	図書館サポーター養成講座 13:00~15:30	10人
平成25年2月1日(金)	北図書館	図書館サポーター養成講座 13:00~16:00	15人

★申込が必要です。電話か来館で申込みしてください。



目次

ボランティア はじめませんか？	… 1
堺かるた いろはの「ら」	… 2
シリーズ堺の〇〇 堺奉行 堺奉行と若狭野浅野家	… 2
この本で解決！ ~子どもの本で調べる~	… 3
中学生おすすめの本	… 3
資料(点検) 整理期間のお知らせ	… 3
司書のイチ押し！ 『図書館が教えてくれた発想法』	… 4
さかい☆HUG はぐメール配信中!!	… 4
堺市立図書館電話番号一覧	… 4

ゆづりは

とは・・・

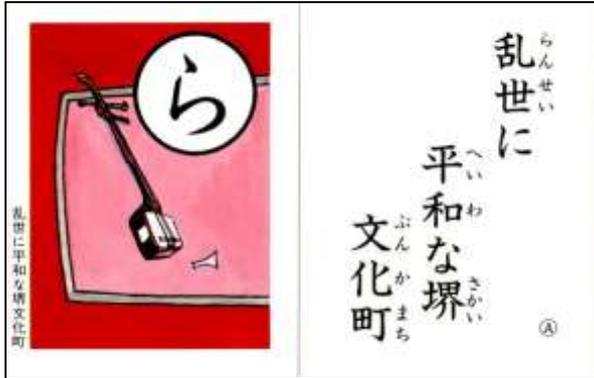
中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて 譲り葉の
ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



堺かるた - いろはの「ら」

らんせい へいわ さかい ぶんかまち
「乱世に 平和な堺 文化町」

「その市街は大きく、富裕であり、盛んに商取引が行われるのみならず（中略）、絶えず各地から人々が参集するところであった」

堺で布教活動をしていたこともある宣教師ルイス・フロイスがその著『日本史』で記したように、戦国時代、海外貿易の拠点として栄えた堺は、町の周囲を濠でめぐらし、商人の代表である会合衆が町を治める自治都市を築いていました。そのような平和で自由な雰囲気なのか、連歌や茶の湯などさまざまな文化が栄えました。

出典：『完訳フロイス日本史1 将軍義輝の最期および自由都市堺』（中公文庫）

シリーズ 堺の〇〇

堺 奉行

わかさの
堺奉行と若狭野浅野家

江戸時代、堺には遠国奉行の1つとして堺奉行が置かれていました。奉行所は現在の殿馬場中学校から泉陽高校のあたりに置かれ、堺のまちや港の支配などに当たっていました。当時の組織は与力10騎、同心50人の編成でした。元禄9年（1696）、堺奉行は廃止され、一度は大坂町奉行の支配に入りましたが、元禄15年（1702）に再設置されました。

堺奉行が再設置されたこの年の12月、江戸では大きな事件がありました。『仮名手本忠臣蔵』のモデルになったことでも有名な旧赤穂藩の浪士による吉良邸討入です。断絶した浅野家元家老の大石内蔵助をはじめとする47名は、主君浅野内匠頭長矩の敵として吉良上野介を討ち取り、本懐を遂げました。

その後、浅野家の親戚にあたる家から正徳元年（1711）、堺奉行が誕生しました。旗本の若狭野浅野家当主、浅野長恒です。浅野内匠頭の従兄弟にあたります。長恒は5月1日に堺奉行を拜命、11月に堺へ着任しました。堺奉行の編成は、再設置当時与力6騎、同心40人に減らされていましたが、ちょうどこの時期に以前と同じ人数に戻されました。さらに享保3年（1718）には大和川・石川と各流域の支配も堺奉行の管轄となります。長恒は堺奉行を18年と長く務めたあと、同14年に職を退き、同17年に死去し、浅野内匠頭や赤穂浪士と同じ泉岳寺に葬られました。

堺奉行関係の記述は『堺市史史料』や『堺史料類

纂』等の中にも見られますが、近年兵庫県内で若狭野浅野家の史料群が発見され、その中に堺奉行関係の資料が含まれていることが分かりました。堺のまちに関する記録・絵図や大和川関係の資料など、貴重な資料原本が発見されたことにより、堺奉行の研究もさらに進むことが期待されます。またこれらの資料は『忠臣蔵と旗本浅野家 旗本の職務と川海の役割 たつの市立龍野歴史文化資料館図録』に詳しく紹介されています。



『堺御役屋敷絵図 (写)』文政2年 (1819)

江戸後期の堺奉行の絵図です。右上の色の濃い部分が役所の機能を果たしていました。

この本で解決！ ～子どもの本で調べる～

堺市をはじめ、多くの公共図書館では、「一般書」と呼ばれる大人向けの図書と、「児童書」と呼ばれる子ども向けの図書をそれぞれ分けています。今回は、図書館に寄せられた調べもののうち、子どもの本によって分かりやすい答えが見つかった例を3つご紹介します。

Q. 外国では靴のまま家に入る国があるが、日本では靴を脱ぐのはなぜか。

A. 『ニッポンの伝統文化を知ろうよ』伊藤高雄/著（開隆堂出版）によると、「日本の玄関は横開きなので玄関に靴を置いても支障がないが、ドアの場合は靴が置いてあると開閉の時、邪魔になる」とあります。ほかに『それ日本と逆！？文化のちがひ習慣のちがひ3』須藤健一/監修（学研教育出版）に、「家の中を神聖な場所」と思う日本人の意識に加え、「湿気が多い気候の地域は床を高くして風通しをよくしたため、家と外の間段差が生まれ、靴を脱ぐ風習が生まれた」との解説があります。

また、アメリカではなぜ靴を脱がないかについての説明もされています。

Q. 植物や樹木がどのように生まれて今のようになったか分かる本は無いかな？

A. 『植物の大常識』大地佳子/文（ポプラ社）に、「いつごろ地上にあらわれたの？」というテーマで、地上に植物が登場してから現在に至るまでの説明とイラストがありました。

Q. 自宅玄関の三和土（たたき）にトックリバチよりも少し大きめのハチが巣を作り始めた。巣は5つほどあり、トックリバチのものと比べて丁寧に作られているようだが、何というハチなのか、名前が知りたい。

A. 『とっくりばち だるま巣をつくるはちのなかま』吉谷昭憲/さく（福音館書店）を見ると、巣の作り方が「スズバチ」のものと一致しているとのこと。さらに一般書の『世界文化生物大図鑑 昆虫I』（世界文化社）でトックリバチとスズバチの大きさの違いを確認すると、まさにスズバチであることがわかりました。

中学生おすすめの本

中学生が職場体験学習として、図書館の仕事体験します。予約のある本を探したり、返却された本を元の場所にもどす作業は、思った以上に体力勝負です。カウンターでの接客は、明るい笑顔と元気な挨拶が基本です。仕事をしていくうえでの責任感ややりがいを体験してもらうことは、多くの可能性を持つ中学生にとって将来の進路や生き方について考える機会となります。

今回、南図書館で職場体験をした中学生に、おすすめの本を教えてくださいました。

- ◆『心を整える。勝利をたぐりよせるための56の習慣』 長谷部誠/著
長谷部選手が、どのようにしてプロサッカー選手になったのかがわかる本です。
- ◆『ヴァンパイレーツ』 ジャスティン・ソンパー/著
ふたごの兄妹が海であらしに会い、兄は海ぞくに、妹はヴァンパイアに助けられて、全く違う世界で二人が力強く生きていく姿がかっこよく、おもしろいです。
- ◆『ホームレス中学生』 田村裕/著
今は芸能界にいる有名な田村さんが、中学時代に経験した「ホームレス生活」についての本です。テレビや友達との会話の中でこの本の話題がたくさん出ていて、気になって読んでみました。私はこの本を読んで、家族やお金の大切さを改めて感じました。何回読んででも飽きないので、とてもおすすめます。ぜひ読んでみてください。
- ◆『海の底』 有川浩/著
海の底から大群でやってきた巨大なザリガニたちは、神奈川県に上陸し、人を襲いはじめます。ザリガニに囲まれ、潜水艦に閉じ込められた夏木、冬原、小中学生らと、ザリガニ駆除に格闘する警察官らが主人公の物語です。

中学生が職場体験学習として、図書館の仕事体験します。予約のある本を探したり、返却された本を元の場所にもどす作業は、思った以上に体力勝負です。カウンターでの接客は、明るい笑顔と元気な挨拶が基本です。仕事をしていくうえでの責任感ややりがいを体験してもらうことは、多くの可能性を持つ中学生にとって将来の進路や生き方について考える機会となります。

資料（点検）整理期間のお知らせ

下記の図書館では、資料の点検・整理作業（蔵書点検）を実施するため、休館します。市内のその他の図書館は通常通り開館します。図書館では年に一度、蔵書点検を行っています。検索をしたときに表示されている場所に実際に資料が並んでいるのかを確認するため、館内の資料を一冊ずつ点検します。皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

図書館	資料（点検）整理期間
人権ふれあいセンター図書ホール	平成25年1月17日(木)～1月18日(金)
美木多分館	平成25年1月23日(水)～1月24日(木)
東図書館	平成25年1月28日(月)～2月1日(金)
梅分館	平成25年2月6日(水)～2月7日(木)
美原図書館	平成25年2月18日(月)～2月22日(金)
北図書館	平成25年2月25日(月)～3月1日(金)

蔵書点検をすることで、
迷子になっている資料を
見つけることができます。

司書のイチ押し!

『図書館が教えてくれた発想法』

高田高史／著 柏書房

皆様は、欲しいと思った情報をどのように探していますか？

通常は、覚えている本の題名や知りたいことを表す言葉を、図書館HPや館内検索端末の検索画面に入力してお探しになると思います。また、編み物の本なら手芸の棚、というように図書館の書架を直接ご覧になることもあるでしょう。

しかし、入力しても的確な本が見つからない時、どの書架にその情報があるのかが分からない時はどうすればいいのでしょうか。

この本は、現役の図書館司書が書いた、求める情報について調べるコツを伝授するための本です。と言っても難しい専門書ではありません。図書館を使う側、本をはじめとしたツールを使って何かを調べる方に向けた実用書です。しかも小説仕立てになっているので読みやすいのが特徴です。

物語は彩乃ちゃんという21歳の女性が、神奈川県郊外にある小さな街の図書館で、夏季短期アルバイトの募集ポスターを目にするところから始まります。好奇心旺盛な彩乃ちゃんは、司書の伊予さんに調べものコツを少しずつ教えてもらいます。このレクチャーが1日1テーマ、彩乃ちゃんの日記形式で綴られます。初日は図書館内の配架場所、2日目はそれぞれのコーナーの意味と目的、3日目は調べたいことが載っていそうな本をイメージすること、4日目はイメージした本を探すために図書館の分類法（日本十進分類法）の仕組みを知ること…

また、この本はタイトルに「発想法」とあるように、調べものをする際にどう考えればいいのかについて書かれた本でもあります。「納豆」について知りたい時、料理（分類は596.3）の棚を見るだけでなく、農産物加工食品の豆類製品（619.6）、原材料である大豆の作物学（616.7）、健康食品（498.583）、食文化の本（383.8）等他の分野に思い至るかどうかで得られる情報量は大きく変

わってきます。そのほか児童書にも分かりやすく詳しい解説があります。製造方法や歴史、食品成分など基本的な事項だけなら、百科事典で十分な情報が得られます。

このように、何かについて調べる時に、掘り下げるのか、広げるのか、他にアプローチはできないか、調査の手順はどうすれば効率的かなど考えて探すことは、問題解決の糸口となります。

図書館資料（電子情報も含む）を使って司書が調べものや資料探しのお手伝いすることを、図書館用語でレファレンスサービスといい、資料とそれを求める人とを結びつける大切なサービスです。

（P3の「この本で解決！」も図書館で受けた実際のレファレンスを基にしています）

この本の姉妹編として、レファレンス事例集の要素が強い『図書館のプロが教える〈調べるコツ〉』『図書館のプロが教える調査のツボ』（ともに柏書房）もあります。

限られた手がかりから求められた情報を探し出すレファレンスサービスは、探偵の仕事とも似ているかもしれません。レファレンスをテーマとしたミステリーに図書館司書を主人公にした『おさがしの本は』（門井慶喜／著 光文社）があります。（T）

さかい☆HUG はぐメール 配信中!!

☑子ども読書や読み聞かせなどに関する情報のジャンルに☑すると、図書館の乳幼児向けイベントや絵本の情報をお知らせします。

右のコードのメールアドレスに、空メールを送信してください。読取ができない方は、直接入力して送信してください。



sakai-hughug@emp.ikkr.jp

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	青少年センター図書室	228-6331
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111	携帯ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp/m/

